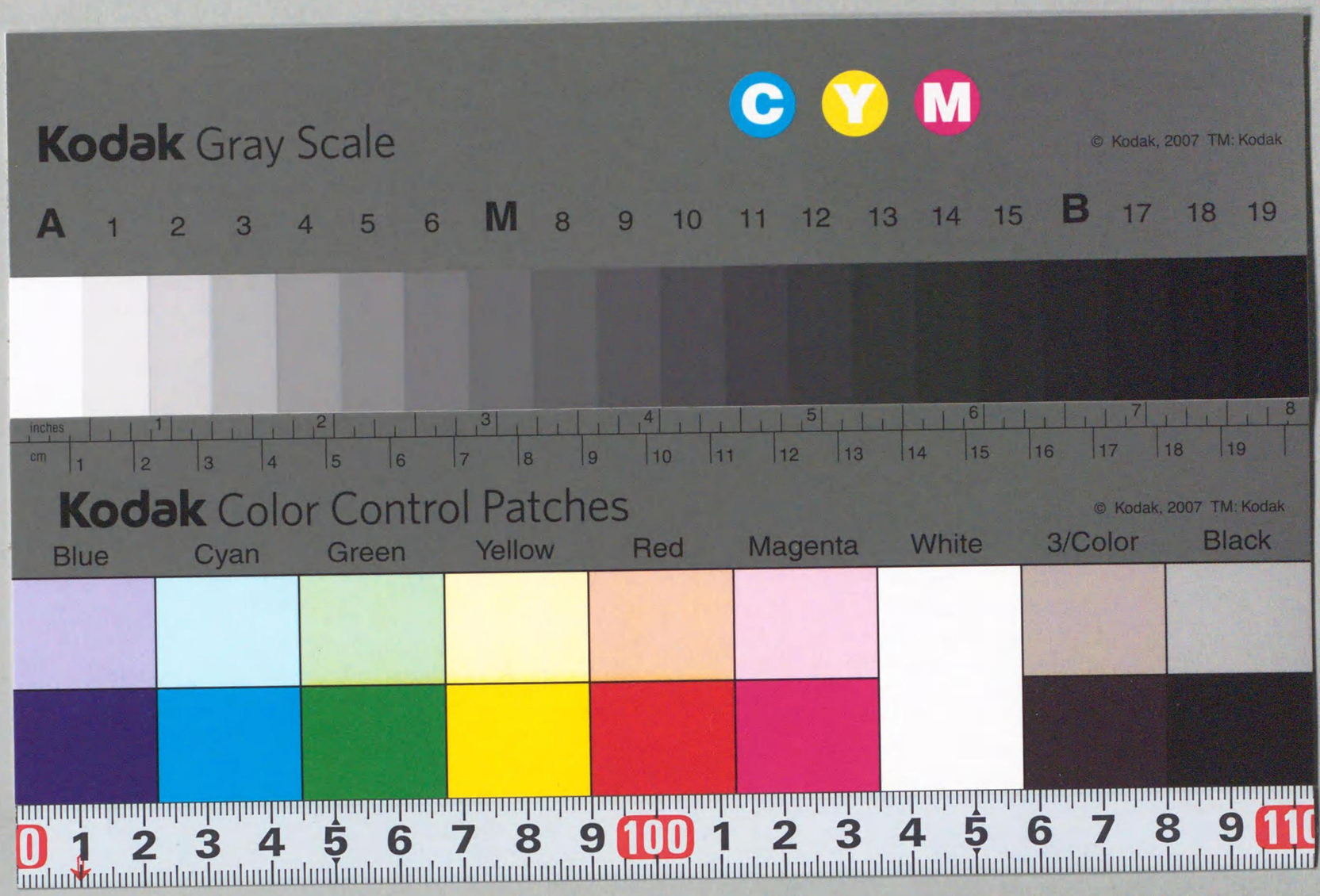
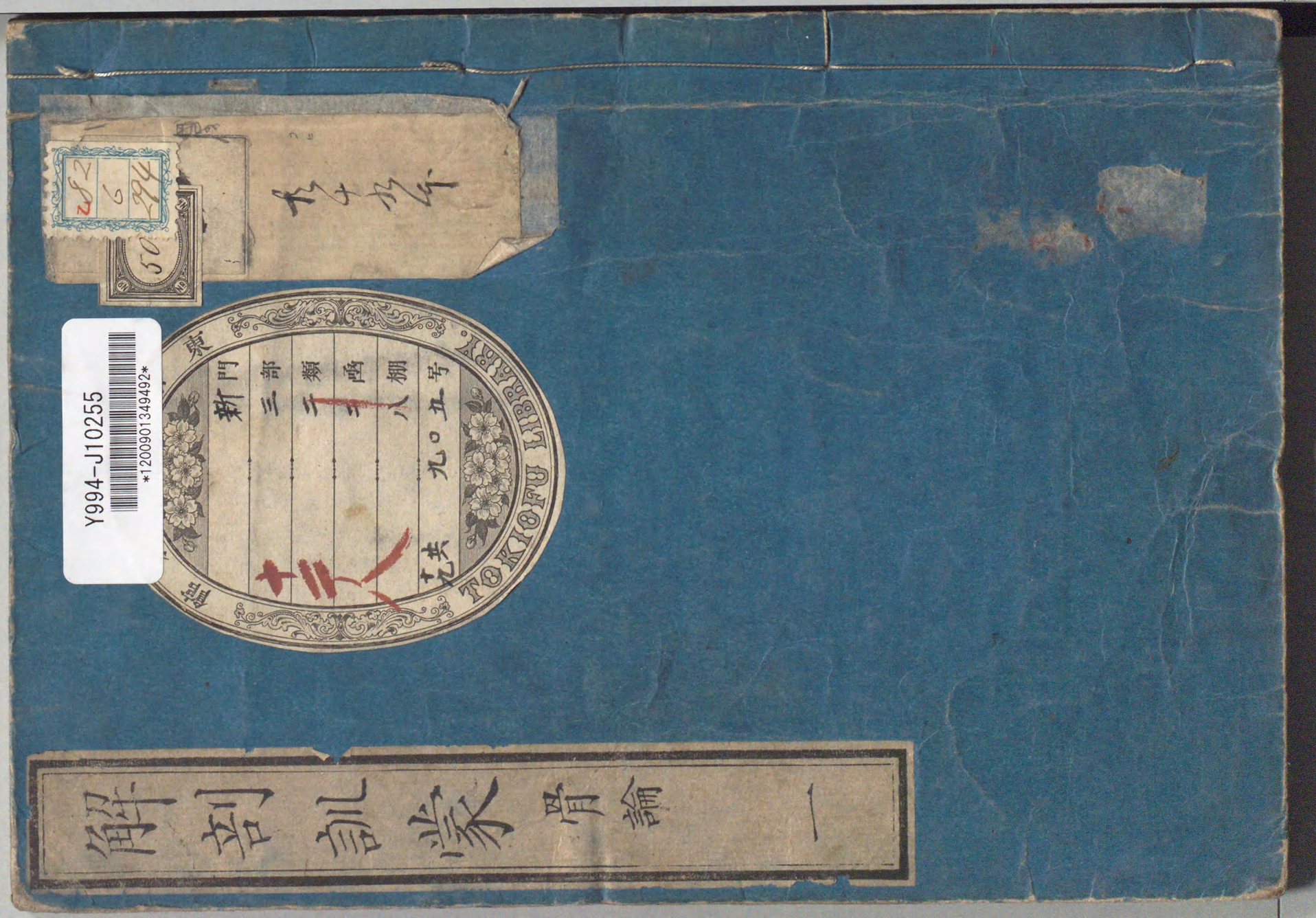

Kodak Gray Scale
C Y M
© Kodak, 2007 TM: Kodak
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19
inches
cm
Kodak Color Control Patches
© Kodak, 2007 TM: Kodak
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black


解體新論 一
TOKIOFU LIBRARY
部門 三
類 千
冊 八
棚 九〇五号
Y994-J10255
1200901349492

明治五壬申年發閲

解剖訓蒙

大坂醫學校官板

Y994
J10255

1200901349492

解剖訓蒙卷之一　大坂醫學校官板　題言

題言

是歳定課ノ暇、社友相謀テ、列第氏ノ解剖訓蒙ヲ譯ス蓋シ愛ニ一義アリ、夫レ列第氏ハ、英米二國ノ杏林ニ關與シ、殊ニ米ノ「ペンシルヴィニヤ」ノ大學ニ於テ、解剖學ノ教頭タレハ、醫境ニ達セシコト固ヨリ明ケシ、然ルニ斯ク務テ、平坦ナル一書ヲ著述セシハ、蚤ニ吾醫道ノ至嶮ニシテ至遠ナルヲ憂ヒ、乃千切ニ學則ヲ設テ、先ツ其概略ヲ示シ、後ニ其蘊奥ヲ得セシメント欲セシ者ナリ、是レ

所謂粗ヨリ精ニ入リ小ヨリ大ニ移ラシムルノ良工風ナレハ、其志ノ篤キ、實ニ拳拳服膺スヘシ、若シ已ノ達境ニ誇リ、其著述直ニ但タ精密盛大ノミヲ要セハ、何ソ以テ列第氏トスルニ足ランヤ夫レ醫道ヲ脩ルハ、譬ヘハ生地ニ夜行スルカ如シ、必ス炬火ト標準トヲ求メサル可カラス、乃千今日演習スル所ノ、本預ノ二科ハ、其炬火ニシテ、列第氏ノ設シ如キ學則ハ、其標準ナリ、然レハ則チ盛ニ學校ヲ建テ、件ノ二科ヲ演習スルトモ、學則其順序ヲ失テ、或ハ初ヨリ獵精ニ過キ、或ハ粗漏ニ蹈趨セハ、必ス迂路迷津シテ、何ソ能ク醫境ニ達スルヲ得ンニ、宜哉列第氏先ツ卑近ナル訓蒙ヲ著述セシトハ、嗚呼彼レ開化スルヿ既ニ早シ、仍ホ平坦ニシテ歩渉シ易キノ書ヲ以テ初學ニ供セリ、況ンヤ其草創ナル國土ニ於テヲヤ。

明治五壬申年　松村矩明録

解剖訓蒙序

此書ハ、解剖學ヲ脩ムル者ノ門戸ニシテ、積帙ヲ歷涉セシ者ニ供ス可キニアラス、其旨趣、標題ニテ顯然タリ曽テ作者モ初歩タリシカ、當時學途ノ多嶮ナルニ由テ、自ラ意ラク、此書ノ如キ平坦ニシテ卑近ナル者アラハ、必ス雜窓ニ便ナルベシト、今一日長スルヲ以テ、諸生ヲ教育スルニ、談中偶其素志ニ原テ一舉セントス欲スルニ及ヒ、諸生欣然トシテ相告テ曰ク、他人心アリ、予之ヲ忖リ度ル、夫子ノ謂ヒナリト、且悦ヒ且請テ止ヌ

ス、故ニ固陋ヲ忘レテ、遂ニ之ヲ編成ス、幸ニ彼ノ讃美ニ酬ヒ得サルヲ咎ルナカレ、抑解剖學ハ、胸次ニ銘記シ得ルヲ甚難シト、吾曹恒ニ之ヲ浩歎セリ、其然ル所以ヲ察スルニ、多クハ部位ノ名稱、煩且紛ニシテ、之ヲ洗除スヘキ者アルニ由レリ、何トナレハ、其部位ハ瑣細ニシテ緊要ナラサルニ、其名稱ハ、宏遠ニシテ高尚ナルヲアリ、又其名稱ハ頗ル許多ニシテ其部位ハ僅ニ一箇ナルヲアリ、加之、著述家各其意ニ任セテ、件ノ許多ナル名稱ヲ漫用セリ、豈亦タ煩且紛ナラスヤ、蓋シ部位ニ於テ、其名稱ヲ下スヲハ、未タ一定ノ法式アラス、或ハ其形狀ニ因リ、或ハ其作用ニ因リ、或ハ解剖家自已ニ想像シテ、他物ニ比稱シ、或ハ發明者ノ功績ヲ追念シテ、其人名ヲ直稱ス、是故ニ作者更ニ模範ヲ立テ、都テ一部位ハ一名稱ヲ用ヒ、且ツ從來慣呼セシ所ニ就テ、其名實尤モ妥當ナル者ヲ撰ミ、其義邦語ヲ附ス可キアラハ、務テ之ヲ拾取シ、殊ニ其同意ニシテ異名ナル者ヲ、錢外ニ列舉シ、以テ諸生ノ逐次ニ外堂スルノ一助タラントヲ庶幾スト爾カ云フ、紀元一千八百六

凡例

一原本ハ、紀元一千八百六十一年、米醫列第氏ノ著ス所ニシテ、「エレメンタリー、トリーチス、ヲヅ、ヒューメン、アナトミー」ト稱ス、解剖訓蒙ノ義ナリ、即チ之ヲ以テ標題トス、

一本文中、小箋ヲ作ル所ハ、部位ノ名稱ナリ、其直下ニ列第氏ノ撰用セシ原名ヲ附ス、

一總箋外ニ列擧スル所ハ、即チ序文ニ謂ヘル、同意ニシテ異名ナル者ナリ、蓋シ異名ナキ者ハ、決シテ之ヲ推求セス、

一原本ヲ顧ルニ、其義重複スル所アリ、蓋シ緊要ナル事件ニシテ、諸生ノ習熟ニ便ナルヲ求メシ者ナル可シ、故ニ之ヲ刪正セス、

一原本ニ於テハ、骨論ト靭帶論トヲ以テ一篇トス、今之ヲ別テ二篇トス、又組織論ハ、諸篇中ニ散見ス、今之ヲ集テ一篇トス、是レ原意ヲ害フニ似タレ𪜈、初學ニ解シ易キヲヲ思テナリ、

一解剖學ハ圖繪ヲ要スルヲ以テ、原本固ヨリ之ヲ出セリ、然レ𪜈諸本ヲ照較スルニ、虞列乙氏ノ圖繪、尤モ精詳ナリ、故ニ之ヲ摹寫シテ、別冊

角音訓蒙

一異名中、其部位ニ依テハ、僅ニ數箇ニシテ止ムル者アリ、十數箇ノ多ニ至ル者アリ、故ニ甲ハ之ヲ枚舉シ、乙ハ諸書中ニ多見スル所ノ者ノミヲ撰舉ス、

一小篆内ノ名稱ト、總篆外ノ異名トニ於テ、甲乙丙丁等ヲ附シ、以テ符合トス、

一名稱ニ於テハ、務テ直譯ナルヲ要ス、故ニ字面ノ醜穢ナルヲ咎ムルナカレ、

一異名ニ於テハ、唯タ原語ノミヲ記シ、敢テ之ヲ譯セス、其冗事ニ渉ルヲ恐テナリ、

解剖訓蒙目録

第一篇 骨論
第二篇 關節靱帶論
第三篇 筋論
第四篇 口腔、咽頭、胃管、胃、腸、膵、肝、脾、
第五篇 營養器官論

解剖訓蒙 巻之一

大阪醫學校

一編成ニ以テ參考ニ供ス、

解剖學卷之一目錄

角音詞蒙

第六篇
脈管論 心臟、動脈、靜脈、水脈、

第七篇
呼吸器論 喉頭、氣管、肺臟、附屬腺、

第八篇
泌尿器論 腎臟、副腎、膀胱、尿道、

第九篇
生殖器論 睾丸、陰莖、精嚢、附屬腺、子宮、卵巢、膣、外陰部、乳房、

第十篇
神經論 腦、脊髓、神經、

第十一篇
組織論 骨、軟骨、筋、神經、諸膜、諸腺、齒牙等ノ組織、及ヒ纖維、彈力性纖維軟骨、脂肪等ノ組織、

五官論 視官、嗅官、聽官、味官、觸官、

解剖訓蒙卷之一

米利堅 解剖學教頭約瑟列第著

日本 文部少教授松村矩明譯

骨論

頭顱骨

頭顱骨ハ、其數二十二箇ナリ、每骨ノ聯接甚タ緻密ニシテ、少シモ移動セス、唯下腭ノ一骨ノミ、動關節ヲ爲シテ、殊ニ能ク運轉スル各骨相合抱シテ、諸種ノ窩窟ヲ造構シ、以テ腦髓ヲ護シ、五官ヲ藏シ、及ヒ營養管、呼吸器ノ起端ヲ收ムルヿ之レヲ大別

甲 ヲス、ヲッシピチス
全 ヲス、バジラーレ
全 ヲス、ラムドイデス

シテ二般トス、曰頭蓋骨、曰顏面骨、甲ハ其數八箇ニシテ、乙ハ十四箇ナリ、

頭蓋骨

頭蓋ハ骨ノ内、四箇ハ單骨ニシテ其兩側匹同シ、額骨是ナリ」四箇ハ對骨ニシテ、頭頂、頭側ニ位ス、頭後、頭底、頭前ニ位ス、曰枕骨、曰蝴蝶骨、曰篩骨、曰顱頂骨、曰顳顬骨是ナリ、

枕骨

甲 枕骨 ヲッシピタルボーン

頭底ニ位シ、其式斜方形ニシテ、内外二面、及ヒ四緣、左右ノ上緣、上角、下角、左右ノ下緣四角アリ、

甲 ホラメン、ヲッシピタールレ、マクニユム
全 ホラメン、マグニユム

乙 パアルス、バジラリス
全 バジヲッシピタルボーン
全 ラロセッシユス、ギユテーホルミス

ノ側角ヲ有ス

下部 兩下緣ノ間ノ内面ニ於テ、中央ニ長圓ナル一大孔アリ、甲枕骨孔 ヲッシピタルホラメン ト稱ス、脊髓副行神經、脊椎動脈ノ行路ナリ、

大孔ノ前方ニ於テ、厚キ板狀部アリ、乙基礎突起 バジラル プロセッス ト稱ス、其側緣ハ、粗踈ニシテ、顳顬骨ノ巖狀部ニ聯接ス」前端モ亦粗踈ニシテ、蝴蝶骨ノ體部ニ聯接ス、此聯接ノ間、嬰兒ニ在テハ、軟骨ヲ有スレ共、凡ソ成丁ニ及ヘハ、硬骨ニ化成スルヲ以テ、彼此相合シテ、一骨ト爲レリ、

基礎突起ノ上面ハ、平滑ナル淺溝ニシテ、斜ニ下
テ枕骨孔ニ達ス、延髓ノ安乘スル所ナリ、下面ハ、
粗踈ニシテ、筋肉ノ着痕ヲ有ス、咽頭ノ懸垂スル
所ナリ、
外面ニ於テ、大孔ノ兩旁共ニ一ノ楕圓ナル凸節
アリ、枕骨髁（コンデール）ト稱ス、此二髁、前方ハ相進向
シ、后方ハ相退離シ、其面ハ、凸出シテ外方ニ向キ、
軟骨ヲ被包セリ」人能ク俯仰スルヿヲ得ルハ、此
髁ト頸椎初節ニ於ケル關節突起トノ轉機ニ依
レハナリ、

髁ノ前方ニ、一ノ横孔アリ、前髁孔（アンテリヨル、コンデイロイドホラメン）ト稱ス、内ヨリ外ニ穿通ス、舌下神經ノ由
テ出ル所ナリ」又屢其后方ニ於テ、他ノ一孔アル
フアリ、后髁孔（ポステリヨルコンデイロイドホラメン）ト稱ス、靜脈
ヲ通ス、
髁ノ外旁ニ、稜稜タル凸節アリ、横突起（タランスヴエルス、プロセッスト）稱ス、其下面ハ、起線ヲ有シ、筋肉ヲ附ス」上
面ハ、溝ヲ有シ、側竇ノ下尾ヲ納ル」尖端ハ、關節面
ニシテ、軟骨ニテ被包ス」前面ハ、廣キ截間ヲ有シ
テ頸孔（ジュギュラル、ホラメン）ノ一部ヲ造爲シ、側竇是ヨリ出

ライト稱ス、其中間及ヒ其下部、共ニ粗踈ニシテ、直頭諸筋ノ附着スル所ナリ」蓋シ此線ハ、壯年多肉ノ人ノミニ顯著セリ、

内面ハ凹入シ、十字形ノ大畫アリ、(枕骨又線 ヲッシピタル、コロッス)ト稱ス、此ニ由テ、劃然ト四箇ニ分レ、各〻廣濶ナル淺窩ヲ造為ス、其下方ノ二窩ハ、大腦ノ后葉ヲ盛リ、上方ノ二窩ハ、大腦ノ半規又線ノ中點凸出セリ、(内枕骨結節 インテルナル、ヲッシピタル、プロチュベランス)ト稱ス、外結節ニ比スレハ、稍ヤ下方ニ位セリ」又線ノ上枝ハ、溝ヲ為シテ、縱竇ノ狀尾ノ行

テ、頸靜脈ニ變成ス、其他、副行神經、迷行神經、舌咽神經等ノ由テ出ル所ナリ、

上部(兩上緣ノ間)ハ、廣濶ニシテ外面ハ凸出シ、其殆ト中央ニ於テ結節アリ、(外枕骨結節 エキステルナル、ヲッシピタル、プロチュベランス)ト稱ス、是ヨリ一ノ直線、縱ニ隆起シテ、枕骨孔ニ至ルアリ、(甲 枕骨鷄冠 ヲッシピタル、クレスト)ト稱ス、項窩敷帶ノ附着スル所ナリ」爰ニ結節ノ外方ニ於テ、兩旁共ニ、一ノ曲線アリ、横ニ隆起ス、其少シ下ニ、一ノ曲線アリ、亦横ニ隆起ス上方ヲ(乙 上曲線 シュペリヨル、カルヴド、ライン)ト稱シ、下方ヲ(下曲線 インフェリヨル、カルヴド、

甲 ヲッシピタル、スパイン

乙 シュペリヨル、セミシルキュラル、レッジー

丙 インフェリヨル、セミシルキュラル、レッジー

甲 ヲス、スヘノイデイユム
全 ヲス、ギュ子ーホルム
全 ヲス、アジゴス
全 ヲス、アラーチユム

乙 バジスヘノイドボーン
全 プリンシパル、スヘノイド、ボーン
丙 セルラ、トルシカ
全 セルラ、エクイナ
全 エフ、ツピユーハ

間骨ニ相當ス、此一片、再ヒ中縫アリテ、左右ノ二片ト爲ルコアリ、

蝴蝶骨

甲 蝴蝶骨 スヘノイド、ボーン ハ、頭底ノ殆ト中央ニ横居シテ、頭腔、眼窩、顳顬窩、蝴蝶腭窩、鼻窩ノ造構ニ關與シ、實ニ頭顱諸骨中ノ總輔タリ」其式、兩側ニ跛張シ、即チ蝴蝶形ナレ𪜈、甚タ錯雜ナルカ故ニ、體、翼、狀突起、及ヒ孔等ニ分テ、次第ニ辨說ス、

體 ボデー ハ、骨ノ中部ニシテ、其式、略ホ骰子形ナリ、上面ハ深ク凹陷シテ、丙 粘液窩 ピトイタリー、ホッサト稱シ、腦

跡ヲ證シ、其溝緣ハ、大腦鎌狀中隔ノ后端ヲ附ス」下枝ハ枕骨孔ニ達シテ、小腦鎌狀中隔ヲ附ス」側枝モ亦溝ヲ成シテ、側竇ノ行跡ヲ證シ、其溝緣ハ、大小腦ノ中隔ヲ附ス、

枕骨ノ上緣ハ、鋸齒狀ニシテ、左右ヨリ斜ニ相會シ、即チ 枕骨角 ヲッシピタル、エングル ヲ造リ、兩顱頂骨ノ縫居ニ挿入ス」下緣ハ、粗踈ニシテ鋸齒狀ヲナサス、顳顬骨ノ乳頭部ニ聯接ス」間、或ハ外面ノ二曲線ノ間ニ橫縫アリテ、上部乃チ上下ノ二片ト爲ル、斯ク變形スル片ハ、其上片ハ、咽獸、反噛獸ノ顱頂

甲 ドルシユム、エライツピイ
乙 クレヴユス
全 クレヴユス、ブリユメ
ンバキー
乙 プロセッシユス、クレ
ノイデー、ポステリヨルス
丙 プロセッシユス、クレノ
イデー、アンテリヨルス
丁 チュベルキュリヨム、エ
ライツピー

ノ粘液腺ヲ填充ス」后方ニ於テ、斜聳シタル板狀ノ突起アリ、甲斜坡（デクリヴユス）ト稱ス、斜ニ下行シテ、枕骨ノ基礎突起ノ淺溝ニ連合シ、其上ニ「ヴイロリ橋ヲ橫架ス」坡ノ上方ニ、鈍圓ナル隅角アリ、乙后床（ポステリヨルクリノイド、プロセッスス）ト稱ス、蓋シ其前涯ニ在リ窩ノ前方ニ於テ凸出アリ、丁攬突起（アンテリヨルクリノイド、プロセッスス）ヲレヴエレー、プロセッスト稱ス、其頂上、少ク凹入シテ、視神經交叉ヲ安放シ、其前方ハ、斜傾ナル平滑面ニシテ、其前緣ヲ以テ、篩骨ニ連接ス、

甲 プロセッシユス、アジゴス
乙 クリスタス、ヘノイダリス
全 スピナス、ヘノイダリス

體ノ后面ハ、粗澁ニシテ、其連着ノ景況ハ、既ニ枕骨篇ニ論セリ、

體ノ兩旁、即チ粘液窩ノ下方ニ溝アリ、頸動脈溝（サルキュス、カロチキュス）ト稱ス、內頸動脈ノ紆廻シテ、前床突起ト攬突起ノ間ニ至ル行路ナリ、

體ノ下面ハ、后鼻竅ノ上方ニ懸垂シテ、中央ニ銳線アリ、甲臍（ロストリヨム）ト稱ス、鋤骨ノ廣緣ニ聯接ス」其兩旁ニ於テ、脆薄ナル起骨アリ、亦タ鋤骨ノ翼ニ聯接ス、

體ノ前面ハ、鼻窩ニ對向シテ、中央ニ起線アリ、乙蝴

甲 シニュス、ズヘノイダリス
乙 アラ、ミノルス
全 プロセッシユス、エンシホルムス

角音訓蒙

蝶鶏冠（甲 スヘノイタト稱ス、篩骨ノ鼻板ニ聯接ス」クレスト）ルヽ、其兩旁ニ一孔アリ、（甲 蝴蝶洞 スヘノイタルシニューシス）ニ通ス、此洞ハ、體ノ内部ヲ成セル、大空虚ニシテ、其中ニ隔板アリテ、左右ノ二部ニ分レ、其大小ハ不同ナリ、蓋シ嬰兒ニ於テハ、體ノ下面ニ、厚キ中線突起シテ、其兩旁、三角窩ヲ有シ、篩骨ヨリ出テタル、尖圓ノ窾骨ヲ承ク、生長スルニ從ヒ、此骨、篩骨ヲ放レテ、蝴蝶骨ニ合シ、以テ件ノ洞ヲ成スナリ、

翼（ウ 井ン グス）ニ大小ノ二部アリ、（乙 小翼 スモール、角ンングス）ハ、體ノ前側部ヨリ起リ、外方ニ張出シタル、劍様ノ突起ニシテ、其位置水平ナリ」前緣ハ鋸齒狀ニシテ、額骨ノ眼窩板ニ聯接シ、後緣ハ滑澤ニシテ彎曲シ、大腦ノ前中二葉ノ間隙ニ挿入ス」劍様ノ外端ハ、尖銳ニシテ甚利ク、后端ハ、鈍圓ニシテ、所謂前床突起ナリ、

（甲 大翼 グリート、角ンク）ハ、體ノ側面ヨリ起リ、外前上方ニ屈曲シテ、三面ヲ有ス」（乙 上面 シユペリヨル、角ーサルフエース）ハ、即チ腦面ニシテ、頭腔底ノ中窩ヲ爲シ、半月様ノ廣濶ナル凹陷ナリ」（丙 前面 アンテリヨルサルフエース）ハ、即チ眼窩面ニシテ、眼窩ノ外壁ノ一部ヲ爲シ、斜方形ナル直

甲 全 アラ、マグナ テンポラル、角ンング
乙 全 シユペルフイシースセレブラリス
全 全 シユペルフイシースインテルナ
丙 西 シユペルフイシースヲルビタリス
全 全 シユペルフイシースアンテリヨル

甲 シュペルフイシー ステンポラリス
全 シュペルフイシー エキステルナ

乙 ラミナ、タライインギ ユラリス
全 スポナ、アギユラリス

角音訓蒙　巻之一　大阪醫學校

面ナリ[甲 外面 エキステルナ]、サルフェートス ハ、即チ顳顬面ニシテ、中央ニ一ノ横線隆起シ、以テ上下ノ二部ニ分ル、其上部ハ、稍ク凹陷シテ、外方ニ向キ、顳顬窩ノ一部ヲ爲シ、下部ハ、曲入シテ、下方ニ向キ、蝴蝶腭窩ノ一部ヲ爲ス、

大翼ノ后部ニ於テ、稜稜タル太キ突起アリ、[乙 棘狀突起 スピノース、プロセッス]ト稱ス、顳顬骨ノ鱗狀部ト巖狀部ノ間隙ニ挿入ス、

大翼ノ頂上ニ於テ、前方ニ斜傾シタル、粗疎面アリ、以テ顱頂骨ノ前下角ト、額骨ノ眼窩板ヲ安放

甲 プロセッスス、テリゴイデー
全 プロセッスス、アリホルムス
乙 ホッサテリゴイデー

ス後縁ハ、凹陷シテ顳顬骨ノ鱗狀部ヲ受容ス、前縁ハ眼窩面ノ前端ニシテ、顴骨ニ聯接ス、下縁ハ、蝴蝶腭間隙ノ上界ヲ爲ス、

[甲 翼狀突起 テリゴイデー プロセッスス]ハ、内外ノ二板ヨリ成リ、體ト大翼ノ聯合スル處ヨリ起リ、鉛直ニ下垂ス、此二板、前方ハ會合シテ、鋭角ヲ爲シ、后方ハ相分レテ、内白ラ溝ヲ爲ス、之ヲ[乙 翼狀窩 テリゴイド ホッサ]ト稱ス、外板ハ、廣薄ニシテ、外後方ニ向キ、其外面、即チ蝴蝶腭窩ノ内壁ヲ爲シ、内板ハ細長ニシテ、后鼻竅ノ側縁ヲ爲ス、

甲 ハミユラルプロセッス

乙 アイツシュムテリゴイデー

丙 ホラメンプテチキユム

内板ノ基礎ニ一窩アリ、船様窩（スカホイト、ホッサ）ト稱ス、口蓋張筋ノ起端ヲ附著ス、而シテ其尖端延長シテ鉤狀ヲ爲ス、之ヲ鉤突起（ハミユラルプロセッス）ト稱ス「彼ノ張筋ノ腱、口蓋ニ至ル迄之ヲ廻旋ス、翼狀窩ノ下部ハ、三稜ナル深キ截間ヲ有セリ、翼（乙）狀截間（インシシユラテリゴイデー）ト稱ス、口蓋骨ノ三稜突起、茲ニ填塞ス、

孔（ホラメン）ハ、數般アリテ、亦タ最要ナル者ナリ、之ヲ以下ニ列序ス、

（丙）視神經孔（ヲプチキホラメン）ハ、攪突起ノ側方ヨリ小翼ノ基礎ヲ穿チ、外前方ニ通ス、即チ視神經、及ヒ眼動脈ノ頭腔ヨリ出テ、眼窩ニ達スル行路ナリ、

（甲）蝴蝶孔（スヘノイド、ホラメン）ハ、是レ大小兩翼ノ間隙タリ、故ニ他ノ諸骨ノ聯接ヲ斷チ、蝴蝶一骨ニ就テ之ヲ見レハ、孔外乃チ開披セリ、然レトモ額骨ノ眼窩板ノ後外端、來附シテ乃チ之ヲ全成ス、

（乙）圓孔（ラヲント、ホラメン）ハ、蝴蝶孔ノ内端ノ直下ニ在テ、大孔形ハ、外端狹ク、内端廣シテ、眼窩ニ通セル動眼神經、滑車神經、眼神經、外轉神經、及ヒ眼靜脈ノ由テ出ル所ナリ、

甲 ホラメンスヘノイダリス
ホラメンフルビダリス、シユペリヨル

乙 ホラメンラセリユム、シユペリユース

丙 ホラメンロチユンダム

甲 ホラメン、ヲヴール

乙 ホラメン、スピノシュム

丙 カナリス、テリゴイデイユス

仝 カナリス、ビジアニユス

翼ノ基礎ヲ、后方ヨリ前方ニ穿行シ、翼狀腭窩ニ通ス、是レ上腭神經ノ由テ出ル所ナリ、

甲 長圓孔 ヲヴエル、ホラメン　ハ、圓孔ニ比スレハ、大ニシテ、且ツ其后方ニ在テ、相距ツコト半「イン」チ、即チ大翼ノ腦面ヨリ、直ニ下穿シテ、翼狀突起ノ外板ノ后方ニ出テ、下腭神經ヲ通ス、

乙 棘孔 スピノース、ホラメン　ハ、長圓孔ノ稍ヤ后方ニ在テ、即チ棘狀突起ヲ直穿シ大腦膜動脈ヲ通ス、

丙 翼狀管 テリゴイド、カナール　ハ、翼狀突起ノ根蔕ヲ、前方ヨリ後方ニ穿通シ、翼狀神經ヲ通ス、

甲 カナリス、テリゴイデ、パラチニユス

甲 翼狀口蓋管 テリゴパラチ、カナール　ハ、翼狀突起ノ根蔕ノ內側ニ於ケル小溝ニシテ、口蓋骨ノ聯接ニ依テ全管ヲナス

篩骨

乙 篩骨 エトモイド、ボーン　ハ、頭底ノ前部ニ在テ、頭腔、鼻窩、兩眼窩ノ間ニ位シ、其式骰子形ニシテ、內部ハ衆多ノ窩房ヲ有シ其質ハ頗ル脆薄ナリ」之ヲ直板、篩板、側室ノ三部ニ別ツ、

直板 ヴェルチクル、ラミナ　ハ、骨ノ真中部ナリ、其上部ハ、頭腔內ニ突出シテ、丙 篩骨鷄冠 エトモイダル、クレスト　ト稱ス、前方

甲 カナリス、テリゴイデ、パラチニユス

乙 ヲス、エトモイデイユム

仝 ヲス、クリブロシュム

仝 ヲス、スポンジヲシュム

仝 ヲス、ギュビキュム

丙 クリスタ、エトモイダリス

仝 クリスタ、ガルリ

甲 プロセッスス・アラルス

乙 ラメルラ・ナサリス

丙 ラミナ・クリブロサ

八、厚シテ尤峙立シ、後方ハ、頓ニ低下ス、此冠、即チ篩骨溝ノ分隔シ、且ツ大腦ノ鎌狀中隔ヲ附着ス、

又前方ニ於テ筈ノ如キ小突起アリ、篩骨翼（甲）（エトモイ）タルト、幷ニグスト稱シ、額骨ニ聯接ス、

直板ノ下部、其五分ノ四ハ、鼻板（乙）（レートナサル）ニシテ、略ホ鼻中隔ノ三分ノ二ヲ領セリ、后緣ハ蝴蝶鷄冠ニ接シ、下緣ハ、鋤骨ニ連リ、前緣ハ、下方ハ三角軟骨ニ接シ、上方ハ額骨ノ鼻突起ニ連リ、上緣ハ、兩旁ニ數管直穿シテ、嗅神經ノ支別ヲ通ス、

篩板（丙）（クリブリホルムプレート）ハ、地平ナル衆孔部ニシテ、額骨ノ眼窩板ノ中間ニ位シ、以テ直板、側室ノ二部ヲ連結シ、且ツ鼻窩、頭腔ノ分隔ヲ爲ス、其中央、即チ篩骨鷄冠ノ兩旁ニ、凹陷シタル溝アリ、篩骨溝（エトモイタルガッタルス）ト稱ス、嗅神經球之ヲ填充ス、其衆孔ヲ篩眼（ホラミナクリブロサ）ト稱シ、前方ニ在ル者ハ、大ニシテ眼神經ノ鼻支ヲ通シ、后方ニ在ル者ハ小ニシテ嗅神經ノ支別ヲ通ス、

側室（甲）（ラテラルマッス）ハ、薄壁ナル衆多ノ窩房ニシテ、篩骨（乙）房（エトモイダルシニユーシス）ト稱スル者ノ纂族ナリ、之ヲ三叢ニ分ツ、曰前房叢、中房叢、后房叢是ナリ、

甲 ラビリンツ

乙 セルリユラ・エトモイダリス

甲 ヲス、プラニユム 仝 ラニヱ、パピラシー

乙 シユペリヨル、ミツデル、トルビ子ーテド、ボー 仝 コンカ、シユペリヨル、エトトーインフェリヨル 仝 コンカ、ミノル、エト、マジヨル 仝 シユペリヨル、ミノデル、スポンジー、ボーン

角音訓蒙

外面ハ、即チ眼窩ノ内壁ニシテ、甲眼窩板フルビタルプレート稱ス」此板、方形ニシテ、能ク房壁ニ適スレドモ、其小ナルヲ以テ、全ク閉了スルヿヲ得ス、故ニ前方ニハ、涙骨、腭骨アリ、上方ニハ、額骨ノ眼窩板ノ内緣アリ、後方ニハ、蝴蝶骨、口益骨アリ、以テ其闕�perfect ヲ補ヘリ、

側室ノ内面ハ、即チ鼻面ニシテ、二箇ノ薄骨アリ、共ニ乙貝殼突起シユペリヨルビ子ーテド、プロセッシユス トル稱ス」其上ノ者ハ、側室ノ上方ニ位シ、細小ニシテ薄ク、上方ニ卷曲セリ」其下ノ者ハ、側室ノ后方ニ

甲 ミーチユス、ナリユム、シユペリヨル

乙 ミーチユス、ナリユム、メジイユス

丙 ヲス、シンシピチス 仝 ヲス、コロナーレ 仝 ヲス、ブローラ

ヨリ前方ニ届テ、卷背ヲ鼻中隔ニ向ケ、卷腹ヲ篩骨房ニ向ケ、卷端ノ粗跡緣ヲ下方ニ垂ル」上下ノ貝殼突起ノ兩間ニ斜隙アリ、甲上鼻道シユペリヨルミーチユス ト稱ス、是レ中后二房叢ノ開達スル所ニシテ、其上方ハ、數多ノ穿孔ヲ有シ、嗅神經ノ支別ヲ通ス」下貝殼突起ハ、乙中鼻道ミツドルミーチユス ノ上界ニシテ、前房叢ノ開達スル所ナリ、

額骨

丙 額骨フロンタルボーン ハ、頭蓋ノ前部ニ位シ、額、眼窩ノ上益、及ヒ鼻根ヲ造成ス、

甲 チユベル、フロンタリス
フロンタル、プロチ
仝 エベランス

乙 プロセッシユス、ジゴ
マチキユス

外面ハ、滑澤ニシテ凸出シ、兩旁ニ於テ突起アリ、
額隆起（甲 フロンタル、エミネンス）ト稱ス、是レ尋常尤モ隆見スル所ニシテ、殊ニ少年ニ於テ著明ナリ、
下緣ノ兩旁ニ於テ、横經ナル弓狀ノ起線アリ（上眼窩緣）シユプラヨルビタル、マルゼンヨ）ト稱ス、其線端、一方ハ（内）背突起（インテルナル、アンロセッス）ニ至テ止リ、一方ハ（外）背突起（エキステルナル、アンロセッス）ニ至テ止ル、
上眼窩緣ノ内方ニ於テ孔アリ、或ハ截間ニシテ、
韌帶ノ閉着ニ因テ、孔ヲ成スヲアリ、（上眼窩孔）シユプラヨルビタト稱ス、動脈、神經是ヨリ出テ、額面

甲 アルキユス、シユペルシリアリス

乙 キサル、チユベロシテー
仝 ガラベルラ
丙 インテルシリユーム
ポンス、ナサリス

丁 スピナ、ナサリス、シ
ユペリヨル

二循ル、
上眼窩緣ノ上方ニ於テ、弓狀ノ隆起アリ、（甲 眉毛線）シユペルシリアレ、レッジー）ト稱ス、即チ眉毛ノ直上ニ在ル者ニシテ、其發見ノ度ハ、毎人同シカラス、又其中間ニ於テ隆起アリ、（乙 鼻隆起）ナサル、エミネンス）ト稱ス、其下方ハ（丙 鼻根）ルート、ヲブ、ノーズ）ニ終ル、此根ハ、鼻骨及ヒ腭骨ニ、相接セル粗疎面ニシテ、其中央ニ尖銳ナル突起アリ、之ヲ（丁 鼻棘）ナサル、スピナ）ト稱ス、前方ニ在テハ、鼻骨ノ懸點ト為リ、後方ニ在テハ、篩骨ノ鼻板ニ連ル、其兩側ニ於テ、始ト半規形ナル起線アリ、（顳

甲 インシイッシュラ、エトモイダリス

乙 シニユス、シユペルシリアリス

仝 シニユス、ピヤイタレー、フロンチス

仝 カヴエル、ナ、フロンチス

蓋ヲ爲シ、其間ハ廣隙ニシテ、甲篩骨截間（エトモイダル、スリッ）ジユール」ト稱ス」板ノ上面ハ凸出シ、大腦前葉ノ紆廻ニ由テ、深キ壓痕ヲ有ス」其下面ハ凹陷、且ツ滑澤ニシテ、外背突起ノ內方、尤モ凹入ス、是レ涙線ノ塡充スル所ナリ」又內背突起ノ近旁ニ、小凹アリ、是レ滑車軟骨ヲ納ル所ナリ、

眼窩板ノ外緣ハ、外背突起ト共ニ、顴骨ニ連合シ、后緣ハ、蝴蝶骨ノ小翼ニ互接シ、內緣ハ、數多ノ淺窩ヲ有シテ、篩骨房ノ上界ヲ爲シ、且ツ其房ノ前方ニ於テハ、乃チ額洞（乙フロンタル、シニユース、ト交通ス」此洞

甲 クリスタ、フロンタリス

乙 パルテス、ヲルビテールス、ヲルポリソンテールス

角音訓蒙　卷之一　大阪醫學校

顳線（テンポラール、レッジー）ニ屈曲シ、顳顬窩ノ前界ヲ爲ス、

內面ハ、凹陷シテ大腦紆廻ノ壓痕ヲ有ス、其下部ノ中央ニ於テ起線アリ、甲額骨鷄冠（フロンタル、クレスト）ト稱ス、大腦鎌狀中隔ノ依附スル所ナリ」此冠、直上シテ上部ニ至ルニ臨ミ、分裂シテ即チ縱竇溝ノ緣ト爲ル」其下方ニ於テ、盲孔、或ハ管アリ、以テ鼻窩ヨリ靜脈ヲ上通シテ、縱竇ニ連達セシム、

內面ノ下部ニ於テ、內ニ進タル、二箇ノ覆盃狀ナル廣板アリ、乙眼窩板（ヲルビタル、プレート）ト稱ス、眼窩ノ上

甲 ヲス、パリーテール
仝 ヲフブレグマチキ孔
仝 ヲス、ゼルテケール

ハ、眉毛線ノ位内ヨリ、起リ上後方ニ開張ス」蓋シ此空部、各人同シカラス、或ハ實シテ衰ヘシ、或ハ高ク額隆起ニ至リ、或ハ後進シテ眼窩板ニ至ル」其周圍間隔アリテ、他部ト混同セス唯タ節骨ノ前房叢ニ因テ、鼻中ニ通ス、

甲 顱頂骨　パリータルボン

角　前ノ上下
后ノ上下

ヲ有シ、額枕二骨ノ間ニ位シ、頭蓋ノ骨ノ上縁ハ、其式方形ニシテ、四縁前后上下四

甲 チュベル、パリーテール
仝 パリータル、プロチュベランス

中央ニ於テ、同名骨相縫合シ、以テ頭ノ上部ヲ成ス」外面ハ、滑澤ニシテ凸出シ、内面ハ凹陷シテ、大脳膜動脈ノ支別ニ由テ、樹枝形ノ壓痕ヲ有ス、外面ノ中央ニ於テ、尤モ隆起スル所アリ、甲顱頂隆起　パリータル、エミヲンス

ト稱ス、其直下ニ於テ、幽微ナル曲線アリ、顳顬線　テンポラレ

ト稱ス、顳顬窩ノ上界ヲ爲セリ、

內面ニ於テ、同名骨相縫合スル所、都テ一條ノ淺キ溝痕アリ、即チ縱竇ノ行路ヲ證ス、

四角中、前下角ハ延長シテ、蝴蝶骨ノ大翼ニ聯接

甲 ヲス、テンポラーレ
仝 ヲス、テンポリス
仝 ヲス、スクワモシユム
仝 ヲス、パリーターレ、インフェリユース

角音訓蒙 卷之一

レ後下角ハ、顳顬骨ノ乳頭部ニ聯接シ、且ツ内面ニ於テ側竇ノ壓痕ヲ有ス、

四縁中、前上后ノ三縁ハ、殆ト鉛直ニシテ厚ク、且ツ鋸齒狀ニシテ、額骨、同名骨、枕骨ニ聯接レ、下縁ハ屈曲シ、搓切シテ銳片ト爲リ、顳顬骨ノ鱗狀部ニ連合ス、

甲 顳顬骨 テンポラルボーン

顳顬骨ハ、頭蓋ノ兩旁ニ在テ、頭底ニ達ス、其式錯雜ナルカ故ニ、分テ三部トス、曰鱗狀部、曰乳頭部、曰巖狀部是ナリ、

甲 パアルス、スクワモサ
仝 スクワマ
仝 ヲス、スクワミホルミー

乙 プロセッシユス、ジゴマチキユス
仝 プロセッシユス、ジユガリス
丙 アルキユス、ジゴマチキユス
仝 ジゴマチック、アルチ

甲 鱗狀部 スクワモース、ポルシヨン

ハ、平滑ニシテ顳顬窩ヲ成シ、内面ハ、大腦紆廻及ヒ大腦膜動脈ノ壓痕ヲ有シ、頭腔底中窩ノ一部ヲ成ス、其上縁ハ、搓切シテ銳片ト爲リ、顱頂骨ノ下縁ヲ覆襲ス、前縁ハ、稍ヤ搓切シテ、蝴蝶骨ニ聯接ス、

外面ニ於テ、下縁ノ中央近部ニ、横長ナル突起アリ、乙 衡突起 ジゴマチック プロセッス

ト稱ス、弓形ニシテ外前方ニ延長シ、顴骨ノ同名突起ニ連合シ、乃チ丙 衡骨 ジゴマ

ヲ成ス、顳顬筋、此下ニ俛過セリ、

甲 アポフィシス、マムミラリス
乙 デイガストリキ、ホッサ
丙 パアルス、ペトロサ
仝 パアルス、ピラミダリス
仝 ペトロース、プロセッス
仝 ヲス、ペトロシユム

乳頭部ノ下方ニ、延長セル扁平ノ粗踈ナル突起アリ、(甲)乳頭突起(マストイド、プロセッス)ト稱ス、筋肉ノ羈附スル所ナリ、其内側ニ於テ溝アリ、(乙)二腹筋溝(デイガストリキ、グルーヴ)ト稱ス、二腹筋ノ根脚ヲ納ル、

乳頭部ノ内面ハ、頭腔底后窩ノ一部ヲ成シ、廣キ縦溝ヲ有ス、是レ側竇ノ紆廻シ下タル行跡ナリ、

其中ニ一孔アリ、乳頭孔(ホラメン、マストイディユーム)ト稱ス、頭皮ヨリ返行セル静脈ヲ通ス、

(丙)巖狀部(ペトロース、ポルシヨン)ハ、他部ニ比スレハ、殊ニ堅剛ニシテ岩ノ如ク、其式三稜柱形ニシテ、内前方ニ進

甲 ホッサグレノイダリス
乙 チユベルキユロム、アルチキユラーレ
丙 フイツジユラ、グレッセリー
仝 グレッセリアン、フイツジユール
丁 パアルス、マムミラリス
戊 セルリユラ、マストイデア

角音詞蒙

衡突起ノ根脚ノ下内方ニ於テ、横凹陷アリ、(甲)淺窩(グレノイド、ホッサ)ト稱ス、其前方ニ於テ、横隆起アリ、(乙)淺窩(グレノイド、チユベルキユラーレ)結節ト稱ス、共ニ下腭ノ關節ヲ爲ス、

淺窩ノ後方ニ裂間アリ、(丙)淺窩裂間(グレノイド、フイツジユール)ト稱ス、以テ巖狀部ヲ分界ス、

(丁)乳頭部(マストイド、ポルシヨン)ハ、其式乳頭ニ似タリ、骨ノ後部ニ位シテ、顱頂骨及ビ枕骨ニ聯接ス、此部ハ、尤モ厚大ニシテ、内部ニ(戊)乳頭洞(マストイド、シニユス)ヲ有シ、以テ皷室ニ交通ス、

甲 ヒアチユス、ハルロピー
乙 ホラメン、ヒジアニ
丙 ヒアチユス、カナリ
ス、ハルロピア

前面ハ斜傾シ、内端ニ於テ、三枝神經ノ半月節ノ
壓痕アリ」上方ハ、迷路ノ上半規管ノ支撐ニ因テ
隆起ス」全徑三分ノ一、内方ニ於テ、幽微ナル細溝
アリ、〔ヒジアン溝〕ルヴイ、ヒジアニ 子ミカナリス、子
リ外方ニ引進シテ、小孔ニ至ル、即チ〔甲ハルロピア
ン門〕ハルロピアニ 管ニ達シ、ニシテ、「ハルロピアン」管ニ達
シ、翼狀神經ノ支別ヲ通ス」細溝ノ下方ニ、一二ノ
小孔アリ、〔巖狀管〕カナリキユリ、ペトロース 子ト稱ス、亦タ神經
ノ行路ナリ、
后面モ亦タ斜傾シ、全徑三分ノ一、内方ニ於テ、斜

甲 三ーチュス、ヲーデトリ
ユス、エキステルニユス
乙 プロセッシュスチー
デトリユス

角音訓蒙 卷之一 十九

向シ、頭腔底ニ突出シ、内部ニ於テ、皷室迷路ヲ藏
ム」基礎ハ、鱗乳兩部、相接スル所ニ在テ、爰ニ廣キ
楕圓ノ一孔アリ、〔甲外聽道〕エキステルナル、ヲートデトリー、ミーチユス
稱ス、内前方ニ穿行シテ、皷室ニ達ス」此孔ノ下界
ニ、卷曲セル骨片アリ、〔乙聽突起〕ヲーデトリー、プロセッスト稱ス、
此緣粗踈ニシテ、耳郭ノ靱附スル所ナリ、
巖狀部、即チ三稜柱ハ、前後下ノ三面、及ヒ上前后
ノ三緣ヲ有ス」前面ハ、頭腔底中窩ノ一部ヲ成シ、
后面ハ、小腦窩ノ一部ヲ成シ、下面ハ、即チ底面ナ
リ、

甲 ミーチュス、デートリユス、インテルニユス
乙 カナリス、バルロピア
丙 エクドクチュス、バルロピア
仝 ポリユス、アキユスチキユス、インテルニユス

角音訓蒙 卷之一 大阪醫學校

ナル一管アリ、(甲 ミーチュス、デートリユス、インテルニユス)内聽道ト稱ス、外方ニ穿行シテ、聽神經及ヒ顏面神經ヲ通ス」管奥ニ橫隔アリテ、二管ニ分ル、上管ハ、(乙 カナリス、バルロピア)ハルロピアノ起端ニシテ、顏面神經ノ道路ニ管ニ、カナールハルロピアン管」ト此管、始ハ前方ニ向キ、鼓室ノ上部ニ至リテ、十リ」此管、始ハ前方ニ向キ、鼓室ノ上部ニ至リテ、頸ニ后外方ニ轉折シ、終ニ下行シテ、錐顏乳頭孔ニ通ス」下管ハ、聽神經ノ道路ニシテ、其支別ヲ以テ、迷路ニ達セシム、蓋シ此辨解ハ、姑ク聽官篇ニ讓ル、

内聽道口ヨリ、凡ソ一「イン千」ノ四分一、外方ニ於テ、短小ナル裂間アリ、(仝 エクドクチュス、ウェスチビユリ)前庭導水管ニ通ス」此管ハ、乃チ迷路ノ前庭ヨリ、迈行セル靜脈ノ道路ナリ、

下面ハ、緊要ノ部位、尤モ多シ、先ツ前外方ニ於テ、扱狀ノ骨アリ、所謂聽突起ナリ、上方ハ、淺窩裂間アリテ、限界ヲ爲シ、下方ハ、銳片ナル阻隔、即チ錐顏突起ノ根蒂ヲ扶持セル、(乙 ウェジナル、プロセッスアリ)室突起ヲ、限界ヲ爲ス、

(丙 プロセッシユス、スタイロイデユース)錐顏突起」(スタイロイド、プロセッス)ハ、長キ尖細ナル刺棘狀ニシテ、下前内方ニ突出シ、圓キ敏帶ニ由テ、舌骨ニ

甲 ホラメン、スタイロマストイデユーム

乙 ホッサ、ジキュラリス 全 シュフルライカ、ヴティ

角音訓蒙 卷之一

連結ス」錐顬突起ト乳頭突起ノ間ニ一孔アリ、(甲錐)顬乳頭孔(スタイロマストイド、ホラメン)ト稱ス、「ハルロピアン」管ニ通シテ、顔面神經、茲ニ出ツ」錐顬突起ノ根帶ノ后方ニ突起アリ、(關節突起)ルプロセッス、此面軟骨ニテ被包シ、枕骨ノ横突起ニ聯接ス」此突起ノ内前方ニ於テ凹陷アリ、(乙頸窩)(ジユキユラル、ホッサ)ト稱ス、内頸靜脈、茲ニ起始ス」其内側ハ、截間ニシテ、即チ頸孔ノ一部ヲ爲ス」頸窩ノ内前方ニ於テ、三壁ノ小窩アリ、其窩底ニ一孔アリ、(蝸牛殻導水管)エクドクチュス、コッフリアト稱ス、迷路ノ蝸牛殻ヨリ、返行セル靜脈ヲ通ス」頸窩ノ前外方ニ、(甲頸動脈管)(カロティツド、カナリスカロチキユス)ナルノ口アリ、上行シテ直角ニ前内方ニ行キ、巖狀部ノ尖端ニ至ル、内頸動脈ノ頭腔ニ通達スル所ナリ、

頸窩ト頸動脈管ヲ、分界セル阻線中ニ小孔アリ、鼓室孔(カナリキユリユス、チンパニキユス)ト稱ス、舌咽神經ノ鼓支ヲシテ、鼓室ニ通達セシムル所ナリ、

巖狀部ノ前緣ニ於テ、巖鱗兩部ヲ分界セル截間中ニ、不正ナル孔アリ、鼓室ニ交通セル管口ナリ」

管内ニ阻隔アリテ、二管ニ分ル、上管ハ、鼓膜張筋

甲　ヌス、マキシルラール、シュペリユス
全　ヲッペル、ジョーボーン
全　マキシルラ、シュペリヨル

乙　シニュス、マキシルラリス
全　アントリユム、ヲブ、ハイモール

上腭骨

甲　上腭骨（シュペリヨル、マキシルラリー、ボーン）

千上腭ヲ成シ、且ツ口蓋、鼻窩、眼窩、蝴蝶腭窩、及ヒ頬部ノ造構ニ關與ス」其體（ボデー）ハ、諸突起ヲ除ケハ、略ホ三稜柱形ニシテ、内部ニ大空虚アリ、（乙）腭洞マキシルラリー、シニュス）ト稱ス、

體ノ内面ハ、不正ナル大孔ヲ有ス、是レ腭洞ト鼻窩ノ通門タリ、其上方ハ、篩骨及ヒ涙骨ニ相接シ、后方ハ、口蓋骨ニ相接ス」前面ハ凹陷シテ、即チ頬ノ一部ヲ爲シ、上方ハ下眼窩縁ニ及フ、此縁ノ直

ノ道路ニシテ、下管ハ、（エウスタキアン管）エウスタキアンチユーブノ一部ナリ、

巖狀部ノ上緣ニ於テ、稍ヤ斜ナル一溝アリ、（上岩狀竇溝）サルキユラス、シュペリヨル、シヌス、ペトロート稱ス、上巖狀竇ノ沿行シテ、側竇ニ通スル所ナリ、

顏面骨

顏面十四骨ノ中、十二箇ハ對骨ナリ、曰上腭骨、曰口蓋骨、曰涙骨、曰鼻骨、曰貝殼骨、曰顴骨是ナリ、二箇ハ單骨ニシテ、亦兩側匹同ナリ、曰鋤骨、曰下腭骨是ナリ、

甲 ホラメン、インフラヲルビターレ
乙 チュベロシタス、キシルラリス
丙 カナリキュリアルヴヲラールスポステリヨルス
仝 カナリキュリ、デンターールスポステリヨルス
丁 プラニュム、アルビタールス
戊 カナリス、インフラヲルビタリス

角音訓蒙　巻之一

下ニ一孔アリ、甲下眼窩孔（インフラヲルビタール、ホラメン）ト稱ス、同名ノ神經ト動脈トヲ通ス」后面ハ、凸出シテ結（乙節）（チュベロシテー）ヲ爲シ、蝴蝶腭窩ノ造構ヲ助成シ、且ツ面上ニ數多ノ穿孔アリ、其大ナル者ハ、丙后齒管（ポスト）ノ始端ニシテ、神經ト動脈トヲ通シ、齒齒ニ達セシム」上面ハ、即チ眼窩板（オルビタルレー）ブル）ト床盤ヲ成シ、其后方ハ、鈍緣ニシテ蝴蝶腭孔ノ下界ナリ、此緣ヨリ下眼窩管（戊インフラ）ヲ分岐シテ二箇ノ細管ト爲リテ、體ノ前壁ヲ下リ、

カナリス、アルヴヲラリス、甲メジユスエト、アンテリヨル
カナリス、デンタリス、メジユスエト、アンテリヨル
仝 プロセッシユス、アルヴヲラリス
乙
丙 アルヴヲリ、デンチス
仝 カヴエルナ、デンチユーム

亦タ神經ト動脈トヲ通シ、前齒ニ達セシム之ヲ甲前齒管（アンテリヨルタル。カナールス）ト稱ス、體ノ下部ニ於テ、楔狀ナル厚キ突起アリ、乙齒窩緣（アルヴヲラト稱ス）ルボルデルト稱ス、后方ヨリ前內方ニ彎曲シ、斜ニ下外方ニ張出ス、其緣ハ游離シテ、尖圓ナル數多ノ深窩アリ、丙齒窩（アルヴヲリ、ヲルシヨケッツト稱ス）即チ齒牙ヲ並植スル所ナリ、

齒窩緣ノ外面ハ、其並窩ノ位地ニ從ヒ、縱ニ參差トシテ凹凸セリ」后端ハ粗踈ニシテ、口蓋骨ノ三稜突起ニ聯接シ、前端モ亦粗踈ニシテ、他ノ同名

甲 スピナ、ナサリス、アンテリヨル
乙 スピナ、ナサリス

甲 プロセッシユス、ナサリス
乙 プロセッシユス、フロンタリス

緣ニ連合スル前端ノ上方ニ於テ、前方ニ向キタル
尖鋭ノ突起アリ、甲鼻棘（ナサル、スピナ）ト稱ス、是レ鼻中
隔軟骨ノ附着スル所ナリ、而テ後方ニ延長シテ、
起線ト爲レリ、乙棘ノ外旁ハ、凹陷シテ前鼻竅ノ一
部ヲ成ス、之ヲ鼻截間（ナサル、インチ）ト稱ス、
鼻截間ノ上部ハ、枝狀ノ突起ニシテ、甲鼻突起（ナサル、プロセット）ト稱ス、上方ニ延長シ、額骨ノ內背突起ニ聯
接スル外面ハ凸出シテ、鼻側ノ一部ヲ成シ、內面ハ
凹陷シ、鼻窩ニ對向シテ、其下方ニ橫線ヲ有シ、以
テ限界ス、是レ貝殼骨ノ鬻附スル所ナリ前緣ハ、

甲 プロセッシユス、パラチニユス

厚ク粗踈ニシテ、鼻骨ニ連着シ、後緣ハ、淚骨ニ連
着シテ、縱溝ヲ有シ、淚鼻道ノ一部ヲ成ス、
齒窩緣ノ基礎ノ內部ニ於テ、地平ノ起板アリ、甲口
蓋板（パレートト）ト稱ス、內方ニ張出シテ、口蓋及ヒ
鼻床ノ造構ヲ輔助スル上面ハ、即チ鼻面ニシテ、滑
澤ナル凹陷ナリ、下面ハ、即チ口面ニシテ、稍ヤ凹
陷シテ粗踈ナリ、而テ齒窩緣ノ內面ニ連續スル板
ノ內緣ハ、厚ク粗踈ニシテ、他ノ同名板ニ連接シ、
且ツ上方ニ反展シテ、起線ヲ造リ、鋤骨ニ聯關ス、
後緣ハ、薄ク粗踈ニシテ、口蓋骨ノ同名板ニ接合

甲 カナリス、ナソパラチニュス
仝 ダクチュス、ナソパラチニス
乙 ホラメン、パラチニュム、アンテリユス
仝 ホラメン、インセシヴュム
丙 プロセッシユス、ジゴマチキユス
丁 ヲス、パラチニュム
仝 ヲス、パラチナー

ス、
歯窩縁ノ前端ト、口蓋枝ノ前内端ノ間ニ於テ、鼻窩ヨリ下タル一管アリ、(甲)鼻口蓋管(ナソパラチナールカナール)ト稱ス、同名骨ノ縫合ニ由テ、此管乃チ相合シテ、(乙)前口蓋孔(アンテリヨルヲチヲ、ホラメンヲ)ト成ス、
體ノ外部ニ於テ、大キナル突起アリ、其突起面ハ、粗疎ナル三角ニシテ、顴骨ニ連ル、之ヲ(丙)顴骨突起(マラルプロトセッス)ト稱ス、同名骨ノ縫合ニ由テ、
口蓋骨
(丁)口蓋骨(パレートボーン)ハ、上腭骨ト蝴蝶骨ノ間ニ在テ、

甲 プロセッシユス、ホリソンタリス
乙 クリスタ、ナサリス
丙 スピナ、パラチナ
仝 スピナ、ナサリス、ポステリヨル

上腭ノ後部ニ位シ、同名骨相合シテ、口腔、鼻窩、眼窩ノ造構ヲ助成ス」其式、工字形ニ似タリ、因テ地平板、直板、小突起ノ三部ニ分ツ、
地平板ハ、即チ(甲)口蓋板(パレートプレート)ニシテ方形ナリ、上面ハ、凹陥シ滑澤ニシテ、鼻床ノ一部ヲ成シ、下面ハ、粗疎ニシテ、硬口蓋ノ后部ヲ成ス」内縁ハ、起立シテ他ノ同名縁ト相合シ、(乙)鼻線(クレストヲ)ヲ造テ、鋤骨ヲ支撐ス、此線、后方ニ至リテ、尖鋭ナル突起即チ(丙)口蓋棘(パレートスパイン)ト、ト爲ル、前縁ハ、上腭骨ノ同名枝ニ聯接シ、后縁ハ、半月形ニシテ、軟口蓋、茲ニ附着ス」

甲　プロセッシユス、ペル　ペンジキユラリス
乙　カナリス、パラチナル　ポステリヨル
仝　カナリス、テリゴパラチナ
丙　ホラメン、スヘノパ　ラチニユム

角音訓蒙

直板ハ、即チ鼻板（甲）ナサル、プレート）ニシテ、地平板ヨリ起リ、頭底ニ達シ、其質尤モ薄シ、内面ハ、鼻面ニシテ、始ト中央ニ於テ、横線ヲ有シ、上下ノ二部ニ分レ、貝殻骨、此線ニ依附ス「外面ハ、縦溝ヲ有シ、乃チ前後ノ二部ニ分ル、此溝ハ、蝴蝶骨及ヒ上腭骨ノ聯接ニ因テ、後口蓋管（乙）ポステリヨル、パラチナル、カナール）ヲ成シ、翼狀腭窩ヨリ、硬口蓋ニ下ル」後部ハ、内翼狀板ニ接合ス、前部ハ、腭骨ニ連リ、腭洞口ノ一部ヲ閉鎖ス、鼻板ノ上緣ニ於テ、圓大ナル截間アリ、胡蝶骨ノ體ノ下面ニ聯接シ、乃チ胡蝶口蓋孔（丙）スヘノパラチナ、ホラメン）ヲ爲シ、翼狀腭窩ヨリ、鼻窩ニ通ス」截間ノ后方ニ突起アリ、蝴蝶突起（甲）スヘノイダル、プロセッス）ト稱ス、亦タ蝴蝶骨ノ體ノ下面ニ連合ス、其上緣ニ溝アリ、蝴蝶骨ニ附着シ、乃チ翼狀口蓋管（乙）テリゴパラチナル、カナール）ヲ爲シ、截間ノ前方ニ突起アリ、眼窩突起（丙）ヲルビタル、プロセッス）ト稱ス、上腭骨ノ眼窩板ト、篩骨ノ間ニ挿入シ、眼窩ノ后下部ヲ成シ、且ツ篩骨ノ後房ヲ閉鎖ス、口蓋板ト鼻板ト互接セル、后角ニ於テ突起アリ、三稜突起（丁）ピラミタル、プロセッス）ト稱ス、后方ニ張出シテ、蝴蝶骨ノ翼狀突起ノ截間ヲ填塞ス、蓋シ此突起、或

甲　プロセッシユス、スヘノイダリス
仝　アポヒシス、テリゴイデイユス
乙　カナリス、テリゴパラチナ
丙　プロセッシユス、ヲルビタリス
丁　テリゴイド、プロセッス　アポヒシス、スヘノイダリス

甲 ヲス、ブクリマーレ
仝 ヲス、アングイス

八后口蓋管ヲ全ク閉鎖シ、又或ハ后口蓋管分岐シ、其枝管ヲ以テ、穿通スルアリ

淚骨

甲 淚骨 ラクリマール、ボーン ハ、面骨中ノ尤モ細小ナル者ニシテ、兩眼窩ノ內壁ノ前部ニ位シ、眼窩、鼻窩、淚鼻道、及ヒ篩骨前房叢ノ造構ヲ輔成ス」其式長方形ノ薄板ニシテ、上方ハ、額骨ノ眼窩板ニ連リ、下後方ハ、篩骨及ヒ上腭骨ニ連リ、前方ハ、上腭骨ノ鼻突起ニ連ル、

外面ノ後方ハ、眼窩內壁ノ一部ヲ成シ、前方ハ、溝

甲 ダクチュス、アッドナソム
乙 ヲス、ナサール
仝 ヲス、ナシイ

ヲ有シテ 甲 淚鼻道 ラクリモナソダクトール、ダクトノ造構ヲ助成ス、內面ハ、篩骨ノ前房叢ヲ閉鎖ス、

骨ノ前下角ニ於テ突起アリ、下垂シテ貝殼骨ノ突起ニ連合シ、以テ淚鼻道ヲ延長セシム、

鼻骨

乙 鼻骨 ナサル、ボーン ハ、鼻根ヨリ下前方ニ突出シ、上腭骨ノ鼻突起ニ聯接スルト、同名骨相合スルトヲ以テ鼻梁ヲ造成ス」其式、不正ナル長方形ニシテ、上方ハ厚シテ狹ク、下方ハ、薄シテ廣シ、或ハ上方甚タ細狹ニシテ、扇狀ヲ爲スニ至ル」且ツ縱經ニ沿

テ彎曲シ、乃チ横面ヨリ見レハ、S字形ヲ呈ス、又
或ハ斯ク凹入セスシテ稍ヤ扁平ナルコアリ、
外面ハ、滑澤ニシテ、横經ニ從ヘハ凸隆シ、其中央
ノ近部ニ、細小ニシテ著明ナル一孔ヲ有ス」内面
ハ、鼻窩ニ對向シテ、横經ニ從ヘハ凹陷シ、且ツ縦
溝ヲ有シテ、其溝中ニ鼻神經ノ支別ヲ通ス、
上緣ハ、厚ク粗踈ニシテ、額骨ニ聯接シ」下緣ハ薄
シテ截間ヲ有シ、即チ前鼻竅ノ上界ヲ成ス」内緣
ハ、上方ハ厚ク、下方ハ漸次ニ薄鋭ニシテ、同名骨
ニ連合ス」外緣ハ、搓切シテ上髁骨ノ鼻突起ノ前

甲 ヲス、トルビナチュム
仝 スポンジー、ボーン
仝 ヲス、トルビナチュム、インフェリユス
仝 コンカ、インフェリヨル

緣ヲ覆襲ス、

貝殻骨

甲 貝殻骨 トルビ子ー テド、ボーン」ハ、始ハ地平ニ突出シ、漸ク内下方ニ卷曲シ、即チ貝殻形ニシテ、鼻道ノ上ニシテ、鼻中隔ニ對シ、四面ハ、外方ニ向ク」其上部ハ薄ク下部ハ厚シテ、海綿狀ヲ爲シ」其前端ハ、上髁骨ノ鼻突起ノ根脚ニ有セル横線ニ附シ、后端ハ、細狹ニシテ口蓋骨ノ同線ニ着ク、

上緣ノ中央ニ於テ、鉤狀ノ一枝アリ、髁突起（ブロセッシ）

ユスマキシルラリス稱ス、腭ニ小突起アリ、上行シテ腭洞口ヲ減少シ、屢篩骨ノ突起ニ連合ス、乃チ篩突起（プロセッシュス、エトモイダリス）稱ス又タ板ノ前方ニ於テ、他ノ小突起アリ、亦タ上行シテ涙骨ノ突起ト相合シ、涙鼻道ノ造構ヲ輔助ス、乃チ涙突起（プロセッシュス、ラクリマリス）ト稱ス、

蓋シ貝殻骨ノ發育ハ、殊ニ許多ノ獸類ニ於テ盛ナリトス、故ニ犬、猫、熊、鼬、鼠等ノ肉食獸ニ就テ、實ニ見シ得ルベシ」人體ニ於テハ、其發育至微ニシテ、獸類ニ比スレハ、畢竟擬似セルノミ、

甲 ヲス、ヴヲメリス
仝 アラトリユム

鋤骨

甲 鋤骨（ヴヲメル）ハ、斜方形ノ一板ニシテ、鼻中隔ノ后部ヲ成シ、側面ハ、鼻窩内壁ノ一部ヲ成ス」上縁ハ、溝ヲ有シテ、蝴蝶骨ノ臍ヲ承ケ、其溝邊ハ、反展シテ鋤骨翼（アラ、ヴヲトメリス）稱ス、亦タ蝴蝶骨ノ翼狀突起ノ根脚ヨリ、突出セル薄板ニ連着ス」下縁ハ、口蓋骨、及ヒ上腭骨ノ口蓋板ヨリ成レル、鼻線ニ聯接ス」前緣モ亦タ溝ヲ有シテ、其下部ハ、鼻中隔ノ軟骨ヲ承ケ、上部ハ、篩骨ノ鼻板ニ聯接ス」後緣ハ、薄シテ半月狀ヲ爲シ、后鼻竅ヲ分界ス、

甲ヲス、マラール
仝ヲス、マラー
仝仝ヲス、ジゴマチキユム
仝仝ヲス、ジユゲール

顴骨

甲顴骨（マラル、ヲルチハ、ボー｜キ、ボー｜ン）頰部ノ尤モ突起スル所ヲ造爲シ、且ツ眼窩ト顳顬窩ノ造構ニ關與ス」ト其式、方形ニシテ、下内方ニ、廣キ粗踈ナル三角面ヲ有シ、以テ上腭骨ノ顴骨突起上ニ斜乘ス、上部ニ於テ、巨大ナル突起アリ、額突起（フロンタルプロセッス）ト稱ス、上行シテ額骨ノ外眥突起ニ聯接ス」ト后部ニ於テ、亦タ巨大ナル突起アリ、衡突起（ジゴマチッキ、プロセッス）ト稱ス、顳顬骨ノ同名突起ニ連合ス、前上緣ハ、凹陷シテ眼窩ノ外下緣ヲ成シ、其緣ニ準シテ、後内方ニ突出シタル一板アリ、眼窩板（ヲルビタル、プレ｜ト）ト稱ス、腭骨、蝶骨、額骨ノ同名板ニ聯接シ、而テ眼窩ト顳顬窩ノ分界ヲ成シ、兼テ胡蝶腭孔ノ外界ヲ成ス、后緣ハ、額突起ト衡突起ノ間ニシテ、殆トS字形ヲ呈ス顳顬筋筴ノ靱附スル所ナリ」下緣ハ、粗踈ニシテ衡骨ノ下緣ノ略ホ二分ノ一部ヲ成ス、

共顏面（フアシアル、サルフェース）ハ、略ホ全然凸出シテ、稍ヤ外前方ニ向キ、一二ノ著明ナル小孔ヲ有ス、此孔ハ、眼窩面及ヒ顳顬面ヨリ、穿來セル數管ニ通ス、

甲 マキシルラ、インフェリョル ヲス、マキシルラーレ、イニフェリユス 仝

甲 下腭骨 インフェリョル、マキシルラリー、ボーン ハ、顔面骨中ノ最大ナル者ニシテ、面部ノ下半規ヲ領シ、上歯ト下歯ノ阻隔ヲ以テ、他ノ面骨ニ合着セス、唯タ顳顬骨ノ淺窩ニ亟縣セリ、之ヲ分テ、體枝ノ二部トス

體 ボデー テハ、歯牙ヲ植ル部ニシテ、隆然ト前方ニ彎曲ス 外面ハ、凸出シテ、中央ニ起線アリ、縫合線 シンフィシス ト稱ス、以テ嬰兒ノ時ニハ、其二片タリシヲ

甲 プロチュベランチア、メンタリス 乙 ホラメン、メンタール ホラメン、マキシル ラーレ、アンテリユス 仝

丙 スピナ、メンタリス、インテルナ 仝 インテルナル、メンタル、チュベルクル 丁 マーロハイライトレッジー リニア、ヲブライク、インテルナ 仝

戊 プロセッシユス、アルヴヲラリス

證セリ」線ノ下部、突起セリ、甲 腮隆起 メンタル、プロチュベランス ト稱ス、其兩旁ニ一孔アリ、乙 腮孔 メンタル、ホラメント稱ス、下歯管ノ末端ナリ、内面モ亦縫合ノ蹤跡ヲ證ス、其下部ニ小節アリ、丙 腮結節 メンタル、チュベルクル ト稱ス、其兩旁、即チ大小齒歯ノ下方ニ於テ、長キ起線アリ、丁 齒線 モラル、レッジー ト稱ス、口床筋茲ニ依附ス、其線ノ下面、稍ヤ壓入ス、腭體ノ下緣ハ、基礎 ベース ト稱ス、鈍圓ニシテ滑澤ナリ、上緣ハ即チ 戊 齒窩緣 アルヴヲラル、ボルテル ニシテ、其造構

皆ナ上膀骨ニ同シ、

枝（ラミイ）ハ、長方形ノ厚板ニシテ、體ノ后端ヨリ起リ、上行シテ衡骨弓ニ至ル」外面ハ、殆ト直面ニシテ、内面ハ、中央ニ於テ（甲下齒管 インフェリヨルデンタルカナール）ノ口ヲ開ク、此管ハ、齒窩緣ノ下方、即チ體中ヲ穿行シテ、腮孔ニ達ス、

件ノ管口ノ周圍ニ、其分界ヲナセル起骨アリ、胡蝶膀斂帶ノ羈附スル所ナリ」其下方ニ於テ、斜下シタル一溝アリ、小神經ヲ納ル所ナリ、

枝ノ后緣ハ、鈍圓ニシテ、下方ニ至リ體ト相接シ、

甲 カナリス、マキシルラリス カナリス、アルヴヲラリス、インフェリヨル

枝ハ枝ノ誤ナリ ラミイレヽ讀ハ枝ノ字ナリ也

結節ヲ爲ス、之ヲ（甲隅角 エンゲルト）稱ス、此角ハ、内面外面共ニ、粗踈ニシテ、二箇ノ咀嚼筋ノ依附スル所ナリ、

末齒ノ直外ニ至ル、

枝ノ上緣ハ、廣大ナル截間ナリ、（乙半月截間 セミリユナル）ト稱ス、其前ナル突起ハ、扁平ニシテ、三箇ノ咀嚼筋ノ依附スル所ナリ、

其後ナル突起ハ、頭上ニ於テ、横經ニ凸隆ヲ冒ス、（丙烏啄突起 コロノイドプロセッス）ト稱ス、顳顬筋、茲ニ羈附ス」

之ヲ（戊髁 コンデル）ト稱ス」頸ノ内面ハ、凹陷シテ前方ニ向ク、外翼

甲 アンギユリユス、マキシルラ

乙 インシシユラ、セミリユナリス

丙 プロセッシユス、コロノイデイユス

丁 コンデーリユス

戊 セルヴヱキス

己 カピチユリユム

己 コルリユム

甲 ヲス、バイヲイテス
全 ヲス、リンギュア
全 ヲス、バイコルン

乙 バシス
全 ヲッシキュリユム、メジュム、バイヲイテス

丙 コルニュア、マジョラ
全 ラミイ

丁 コルニュア、ミノラ
全 コルピュスキュラ

筋ノ附着スル所ナリ、

舌骨

甲 舌骨 ハイヲイド、ボーン ハ、頸ノ前面、即チ舌根ニ位シ、咽頭ノ直上方ニ於テ、之ヲ觸知スヘシ、其中央ハ、兩側ノ匹同ノ體ヲ有シ、兩旁ハ、共ニ大小ノ二角ヲ有ス、

乙 體 ホデー ハ、中部ニ位シ、正面ニ在テ方形ヲナリ、前面ニ出シ、各側壓入シテ、筋ヲ附シ、后面ハ凹陷ス、

丙 大角 グリートル、ホールン ハ、體ノ兩端ヨリ、後方ニ出タル、細長ノ突起ニシテ、尖端、結節ヲ爲ス

丁 小角 レッサル、ホルン ハ、其式、尖圓ニシテ、體ト大角ト互ニ接スル所ヨリ起リ、上后方ニ突出ス、其質軟骨ニシテ、高年ニ至ルモ、尚ホ化骨スルヿナシ、

国立国会図書館

解剖訓蒙卷之一終